

令和4年度第2回四街道市子ども・子育て会議 会議録（概要）

日 時 令和4年8月4日（木）午前10時～午前10時50分
場 所 四街道市保健センター3階大会議室
出席委員 伊藤会長、安部委員、青柳委員、片山委員、楠岡委員、窪委員、
林委員、森委員、棚橋委員、笹原委員、阿部委員、富樫委員
欠席委員 千脇副会長、村井委員、利光委員
事務局 山崎健康こども部長、川田健康こども部副参事
子育て支援課：笠松課長、能勢課長補佐、石川主任主事
保育課：新田課長、下山課長補佐、秋山係長
健康増進課：岡田課長、多田係長
指導課：米元主幹
傍聴人 0人

―― 会議次第 ―――

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 部長挨拶
- 4 諮問
 - ・四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の中間年の見直しについて
- 5 議題
 - ・四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の令和3年度の評価について【資料1、2】
- 6 その他
- 7 閉 会

―― 議事概要 ―――

○開会

○会長挨拶

○部長挨拶

○会議の公開・非公開の決定、会議録の作成について

伊藤会長 本日、傍聴者はいないが、本会議は原則公開とし、審議の内容により非公開とする場合については、皆様にお諮りして決定したいがよろしいか。

《異議なし》

伊藤会長 会議録の発言者名は、会議の公開に関する規定により明記することとなっているため、本会議においても同様とする。

○諮問 四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の中間年の見直しについて

《健康こども部長から伊藤会長へ諮問書の手交》

伊藤会長 ただいまの諮問について何か質問はあるか。

《質問なし》

○議題 四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の令和3年度の評価について

伊藤会長 議題「四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～の令和3年度の評価について」事務局より説明をお願いします。

事務局 《資料1、2について説明》

伊藤会長 ただいまの説明について何か質問はあるか。

笹原委員 資料を読んで、コロナ禍での各部署、外部機関との連携が進んできたことを感じた。しかし、評価の根拠については甘い項目も含まれているように思う。一部に、「開催できました」「パンフレットを作成、配布できました」で○と評価しているものがあるが、相手が本当に理解できているのか、意識化できたのか不安に思う。例えば、駅前でビラを配っていても、ごみ箱を見つけたら捨ててしまうように、パンフレットを配った段階では○にはならない。相手がどう学んで理解し、実際の子育てに生かしていけるかまで考えていかないといけない。講座や研修、パンフレット配布の後にアンケート調査をすることが望ましい。簡単な○×式でもよいが、その人が研修などから何を学んだのか、実際の活動の中で意識化されたか、そういうことがアンケートの中から読み取れる場合に○もしくは◎としたほうがよい。

事務局 講座などでのアンケートについては、すべての講座で実施しているかは把握していないが、おおむね講座の終了後にアンケートを実施していると認識している。今後は、こどもプランの評価に落とし込みをできるように考える。

阿部委員 資料2の4ページ「高齢者との交流」の施策について。同じ経営者で保育園と高齢者施設を営んでいるところに行き話をする機会があった。同じ経営者であるのに施設間の交流ができないそうで、その理由が、保護者の中には高齢者に対して「不衛生」「子どもに触ってほしくない」という考えを持っている方もいるためだと聞いた。高齢者に対する考え方が意識改革される場を作り、そこから交流も深まると良いと思う。その他にも様々な理由があって実現できていないと思うが、高齢者の世代と子どもをうまく結びつけられるような街になるよう、施策が進んでいくと嬉しい。

事務局 高齢者が地域に出ていくことについて、施設の経営者も努力していることは把握している。地域の祭りに参加したり、散歩で公園をして地域の皆さんと交流したりするなどしている。高齢者の担当課も地域の情報を施設に情報提供し、地域との交流を深めていくよう努力している。そういったことがより進んでいけば良いと思う。

こどもルームにおいては、高齢者に限らないが、地域のボランティア活動をされている方々の読み聞かせなどを活動の中に取り入れている。コロナ禍で進んでいない部分もあるが、高齢者も含めた地域の皆さんと子どもの交流が進んでいけば良いと思う。

青柳委員 高齢者と保育園、子どもとの交流は賛成だが、コロナの流行に加え、RS ウイルスやヒトメタニューモウイルスなど、感染した場合に小さい子どもと高齢者が重症化する風邪のウイルスが流行っている。交流は積極的にしてほしいが、感染状況も考慮して進めていただきたい。

事務局 コロナとともに様々な感染症が流行っていることも把握しているので、注意して施策を進めていく。

窪委員 関わりというのはとても難しい。放課後子ども教室の場合は、地域の高齢者をよく知っているの、ハロウィンのときなどは、一人暮らしの家に行って、子どもたちが読み聞かせをしている。何年も続けているが、高齢者とのコミュニケーションというのはすぐにはできないため、こういうことをやっているよと、広報活動ができればより進むと思う。

伊藤会長 高齢者と子どもとの交流は、核家族化も進んでいる中、おじいちゃんおばあちゃんと接する機会が少なくなっていることも、スタート地点だったように思う。感染症がたくさん出ている状況の中で、高齢者も子どもも感染症のことはしっかり頭に入れて事業を進めていると思う。地域にそれが広まって、両方が連携して進めていければ良いと思う。そのように事務局もよろしく願います。

他の事業について何かないか。

棚橋委員 遅れている施策のうち、資料2の15ページ「思春期保健の推進」について。実施校が4校となっているが、実施状況の内容が大事。一番大事なのは、困ったときに、子どもがどういう風に助けを求めるとまで教育できているか。性暴力についての記事を読むと、実は見知らぬ人ではなく身近な人から受けているという。周りで助けられるところを子どもたちに伝えているか知りたい。資料2の22ページ「医療的ニーズへの対応」について。令和4年度以降の課題・方向性で、協議の場の設置に向けて調整を図るとあるが、令和4年度の進捗状況を知りたい。

事務局 思春期保健の推進について、中学校で行っている今期の内容を説明する。命の教育や相手を思いやることについて。男女の性差・性交について。インターネットを通しての被害が増えていることから、インターネットトラブルの事例について。性被害・デートDVについては、ロールプレイを通して学んでいる。

相談機関については、若い方はインターネットで情報を得るので、公的な相談機関のQRコードを複数載せたカード大の資料を配布し、その人がアクセスしやすいところにつながるような情報提供をしている。

事務局 医療的ニーズについて。令和3年度は施策が進んでいなかったが、令和4年度

は障害者支援課にて検討段階に入っているとのことである。

- 笹原委員 資料2の16ページ「食育の推進」について。食物アレルギーに関しては栄養士が研修会に参加し、知識や対応についての知識を得たとあるが、実際に食物アレルギーで、アナフィラキシーをおこした子どもはいないのか。そういう子どものために三者協議などの会議をもっているのか。私の経験で、クラスでエピペンを持っている子どもが2名いた。エピペンというのはその場ですぐに打つことで症状を遅らせる。目の前でアレルギーがおきたことがあり、すぐ救急車を呼んで搬送してもらった。その時にエピペンをすぐやれば重大な事故にはならないということで、エピペンをどこに置くかが職員の間で問題になった。頭にすぐ浮かんだのが保健室だったが、必ずしも保健室の近くで必要な場面が起きるとは限らない。話し合っただけで決めたのが、教室のカバン置き場であった。決めた場所にエピペンの必要な子どもはカバンを置き、そこから取り出すことにした。そのような対策について、四街道市ではどのようにしているか。
- 事務局 アレルギー対策は、各保育所で研修や三者面談を行い対応している。アナフィラキシーの反応や事故があった場合には保育課に報告がくることになっているが、近年はそのような事例がない。

○その他

- 伊藤会長 事務局より何かあるか。
- 事務局 今後の会議の開催予定について説明する。次回は11月17日（木）午後を予定している。回数、開催時期については、あくまでも現時点での想定であり、今後の審議事項の発生や会議での審議状況次第で変更となる場合もある。開催の際に1ヵ月前には皆様にお知らせする。
- 伊藤会長 最後に全体を通して何かあるか。
- 笹原委員 資料の文字が小さくて読めない。
- 事務局 用紙のサイズをA3にするなど検討する。
- 安部委員 高齢者との交流について。小学校では朝の見守りで高齢者の方と毎朝あいさつを交わしている。読み聞かせも今はコロナ禍のためにできていないが、始めようという話も出ている。また、むかしあそびで高齢者の方にお世話になったり、夏休みの間は地域の方に学習サポートで希望する子どもが勉強を見てもらったり、自然同好会の方には自然観察会に来てもらったりしている。今までの勤務校も含めると、たくさんの活動がある。学校でコロナが流行っているときは危険なためこちらから延期するときもあり、高齢者の方のほうから、リスクを考えてお断りしたいというときもあるが、できるだけ活動は進めているところである。アレルギーについても、エピペンが必要な子どものいる学校に勤めていたときは、4月の初めに研修をして全職員が共通理解をし、打ち方も練習する。今の勤務校ではエピペンを必要とする子どもはいないが、突発的なアレルギーはあり得るため、夏休みに研修会を開き、下志津病院の方に来ていただいて、実際にアレルギーが起きた時の対応の仕方についてシミュレーションを行

った。

阿部委員 資料2の3ページ「病児・病後児保育の充実」について。熱が出ると預けられなくて困ったという話を聞く。市内で預けられる病院の一覧はあるか。

事務局 下志津病院のみで実施している。現在は新型コロナの感染拡大が続いているため、受け入れを外傷の方に制限している。感染症の状況を見て、下志津病院と相談しながらできるだけ使いやすいうようにしていく。

阿部委員 コロナでなければ、朝熱が出たときに申し込んで預かってもらえるのか。

事務局 病院には病児3人、病後児3人の受け入れを依頼しており、希望者は事前の申し込みをすれば子どもを預かってもらえるシステムである。しかし、新型コロナが収束しないために、受け入れが制限されている状況である。

○閉会

伊藤会長 以上で本日の子ども・子育て会議を終了する。